

第43回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日 時 令和元年7月29日(月) 18:00~19:15

2 場 所 岡山大学医学部 管理棟3階 大会議室

3 出席者 54名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

○以下報告があった。

前回の議題であった、がん教育に係る外部講師の派遣についての実績である。

・昨年度のがん教育開催実績：10回(生徒・学生対象：8回、教職員対象2回)

(2) 事務局・岡山大学病院

○2019年度各拠点病院から情報提供があった研修会・講演会について報告があり、今後も研修会・講演会の情報があれば事務局へ情報提供いただきたいとの依頼があった。

○岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計(R1年度)について報告があった。

・閲覧数が多い頁は、例年同様「セミナー・講習会(医療関係)」、「セミナー・講習会(一般向け)」「セカンドオピニオン」である。今年度4月に「患者会・がんサロン」の閲覧が特に多かったのが昨年同月と異なる点である。

・訪問者は9割以上が初回で、リピーターが少ない。

・地域別では、岡山県内の方が8割以上アクセスしている。

(3) 作業部会等

① 地域連携パス部会

○令和元年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績(H31.4~R元.6集計分)について報告があった。

・令和元年度は60件で、平成30年度同時期53件より7件増加した。

少し持ち直してはいるが、それ以前と比べるとまだ及ばない。

○岡山大学病院から、乳がんのパスが新しくなったが、現場での使いやすさ様の意見はどうかと質問があった。

→部会長から、自身は直接パスに関係ある診療科ではないので、アンケートを取って意見を聞くと回答があった。

② がん相談支援部会

○5月13日に開催された第39回がん相談支援実務者会議について報告があった。

・今年度は広報活動に力を入れている。各拠点病院が手分けして、がん相談支援センターの認知が低い地域のまつり等に参加してPRする予定である。昨年行った県立図書館での展示・講演会・相談コーナーに加えて、津山市立図書館、笠岡市立図書館でも新たに同時期のパネル展示を検討している。また、愛育委員会を通してのPR活動も計画しており、9月には6ブロックすべてに広報できる予定である。

・ハローワークの出張相談について、岡山大学病院だけでなく、岡山済生会病院、岡山赤十字病院、岡山医療センターでも開始した。

・職員向けとして、岡山大学病院と川崎医科大学付属病院で、研修の開催を予定している。

・PDCAも2クール目に入り、様式を新たに組み立てている。

・9月13日 ピュアリティまきびにて、夜のがんカフェを計画している。院外に出て行くのも、夜の開催も初めての取り組みである。

○岡山大学病院より、国の協議会による患者体験調査については、現在集計中との報告があった。

③ 緩和ケア部会

○以下報告があった。

- ・詳細は、来月の緩和ケア実務者会議で岡山県と協議することになるので、本会議では情報提供とする。
 - ・「がん診療連携拠点病院の整備指針」に基づき、「緩和ケアに関する研修会の対象者および開催」について、2019年9月1日より以下の通り適用するとの報告があった。
 - ・精神科神経科、整形外科など、対象となっていなかった診療科の医師もカウントし、がん診療連携拠点病院としての受講率を満たすことが必要となった。
 - ・研修会の共催について条件が提示されたが、岡山県においては、各拠点病院が各々開催し、所属する臨床研修医を教育する方針である。
- しかしながら、(イ)「研修会の受講率85%以上」について、臨床研修医のみでカウントするのかなど不明瞭な点があるため、岡山県を通じて国へ問合せもらう。
- 岡山県より、現在厚生労働省に問合せ中と回答があった。

④ がん看護部会

○5月24日に開催された第52回がん看護部会について報告があった。

- ・各施設での研修の実施状況について報告があった。
- ・出張セミナーについて、県北の病院が研修会に参加しづらいとのことで、ニーズについてアンケート調査することにした。
- ・看護部会メンバーのブラッシュアップ研修では、ACPについての希望が多く、10月14日に開催することが決まった。

⑤ 研修教育部会

○以下報告があった。

- ・今年度も昨年度と同様のテーマでがん化学療法チーム研修を開催する。多職種チームでの参加とする。

⑥ がん登録部会

○以下報告があった。

- ・前回依頼したとおり、2012-2017年のがん登録データを各病院から集めた。7月11日に一応そろったが、各施設のデータ様式がバラバラで集計できない。データの出し直しをお願いしないといけないかもしれない。
- ・4月24日に国がん登録部会あり。欠席したため詳細不明。

○岡山大学病院より報告があった。

- ・国がんより、5大がんの、病院別、疾患別生存率が発表される予定である。
- ・別添資料内の「がん登録部会からの報告」によると、拠点病院の指定要件について、「政策的公衆衛生的に必要な高い調査研究に協力すること」が条件となっている。
- ・8月末締切りのQ I 研究にぜひ参加をお願いしたい。
- ・年末が締切りの診療体制の調査、担当医による5大がんに関するアンケート調査にも協力をお願いしたい。

⑦ がん薬剤師部会

○以下報告があった。

- ・第2回研修会を6月29日に高梁地区で開催した。病院を対象にしたが、薬局も積極的に参加してくれた。県南の医師の参加も多かった。アンケートの意見「病院と薬局の連携が必要」について、病院薬剤師と薬局薬剤師で協力できることがあるか検討する。
- ・第3回研修会を金川地区で開催予定。(時期未定)

⑧ 歯科部会

○以下報告があった。

- ・本部会は医科歯科連携を目的に発足したが、歯科の規模は各施設で異なり、組織化が難しい。現在、岡山県歯科医師会と部会の整備について話をしている。高梁中央病院と金田病院には歯科がなく、情報が得られず、地域の歯科医師に入ってもらうことを検討中である。
- ・8月に第1回目の会議を開いて、メンバーも増やしたい。また、研修会の開催も検討している。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院

特になし

(5) その他

①岡山大学病院より報告があった。

- ・「がん医療のさらなる充実」「病院完結型から地域簡潔・循環型医療へ」など、拠点病院の指定要件が見直しされるのに併せて、7月1日に拠点病院を、高度型と通常型と区別することになった。
- ・小児がん拠点病院についても見直しがあり、全国15カ所に拠点病院を設定して集中化を計ることとなった。中四国地区では広島大学病院が拠点病院で、岡山県では、岡山医療センター、川崎医科大学付属病院、倉敷中央病院、岡山大学病院が連携病院となっている。
- ・がんゲノム医療中核拠点病院の連携体制について、中核拠点病院が少ないため、あらたにがんゲノム医療拠点病院が設置されることとなった。中核病院は、それ加えて人材育成・治験・先進治療なども行う。遺伝子パネル検査はあくまで検査であって、患者は治療だと思っている場合が多く、検査しても10%程度しか薬にたどりつけないのが現実である。国がんでは、患者申し出療養制度を利用して、何らかの形で患者に提供することを検討している。
- ・臨床研究部会からの報告について、がん診療連携拠点病院を利用して臨床試験に取り組むインフラを構築したい国の考えと、試験を作ってもらって参加したいとする病院側の考えが一致せず、結果として本部会は廃止となった。
- ・がん薬物療法部会の設置について、昨年度の研修会の開催は岡山県は1回で、全体から見ると標準的である。岡山県は化学療法が進んでいるが、医師の数を増やすだけでなく、質の担保を求められている。この部会が動き出したときには部会長を選任させていただくので参加していただきたい。
- ・国から、PDCA部会を設置して県内のがん対策につなげてほしいとの要望が出されている。各病院のPDCAは各々にまかせるとして、県レベルでのPDCAが必要である。好事例として、愛媛県と秋田県が紹介された。県・各病院、各部会の代表者が協議し、県のがん対策を進めることが必要である。

②岡山大学病院よりがんゲノム医療推進コンソーシアム体制について報告があった。岡山県では、がんゲノム医療中核拠点病院として岡山大学病院、連携病院として倉敷中央病院と川崎医科大学付属病院が指定されている。遺伝子パネル検査が6月に保険診療になっているが、作業がおくれており、岡山大学病院では10月以降を開始を予定している。

6 協議事項

○岡山大学病院より、以下の提案があった。

協議会に新設されるPDCA評価部会について、年1回は開きたい。メンバーは親会議とほぼ同様、各拠点病院の方向性を決定する立場の方に参加していただくため、親会議を年2回に減らして（現在、年3回開催）、1回をPDCA作業部会として開いてはどうかと提案があった。本会議では、反対意見は出なかったが、持ち帰り検討して、意見があれば事務局へ連絡することとなった。

7 その他

8 次回開催日

未定、日程は調整が付き次第、連絡。